

# 四季の歌

俳句・短歌教室の詠歌紹介

ともしび短歌会短歌詠草  
水張田に「豊前風土記」の碑のうつるをさざ波ゆらす鏡の山里  
万葉の歌碑を友らと訪ね読む情念ふかき三十一文字を  
香春岳を染むる夕日に河内王鏡の山を陵墓と定めむ  
清祀殿訪えば腰をかけあやとりあそぶ万葉の子らの顕ちたり  
今朝の記事「海の砂漠化」とふ豊なる海と言われし時もありしに  
夜のしじまに「ふくろう」の声うらさびしはらからよびしや裏の森より  
木洩れ日に若みどり透け眩しかり求菩提の風をリュックに詰めて  
亡夫植えし夏みかん枝にたわわなるワカバマークの孫と採りをり

三村 和子  
八代 範夫  
桑野 昭子  
白石 清和  
前田 信子  
白石 信子  
高村 三也  
福田キヨ子

赤池隣保館句会

池田一歩選

盆栽の年輪見せて苔の花  
老犬の病みて静かや実梅落つ  
子育ての頃がなつかし燕の子  
背なの子が足で喜ぶ神輿くる  
彩りの若葉に若さもらひけり  
ほととぎす聞きつ、妣の忌を修す  
伽羅落の素人作り旨かりし  
山脈の景を閉ざして梅雨曇り

小場 妙子  
丸山 鈴子  
熊谷カツミ  
吉田 弘  
千手 弘子  
大久保幸子  
安田 健一  
池田 駒女

福智町金田公民館俳句教室

岩井鬼童選

振り付けは風にまかせて踊花  
春の昼不意に鳴り出す鳩時計  
花は葉に風も馳走のにぎりめし  
少女らの素足眩しき足湯かな  
世の中を逆さに眺め蚊喰鳥  
首飾り作り遊びしげんげ畑  
霊山の妖精乗せて花筏  
八重桜散り糞都と大地かな  
葉ざくらや方向音痴の現在地  
遊園地九ごと笑顔子供の日

長副美恵子  
仲谷ひろえ  
松岡 萬枝  
今井三千代  
西田 真美  
山本 空木  
小川 雪  
小野 美幸  
加藤きみ子  
建部三由紀

方城句会

池田一歩選

子のもとへ転居の友や新茶淹る  
水湛え代田しづかに空映す  
清姫の恋の一途や青嵐  
橘の花の馥郁境内に  
河骨の白花に白き風ふるる  
蝸牛時の流れは緩やかに  
窓辺には朝顔苦瓜クールルビズ  
土埃上げて忙しき田打ちかな  
新緑の織りなす景色雨上がる

長尾 冴子  
長末 耕一  
藤井耿之介  
渡邊 一枝  
尾崎 和子  
木村 誠一  
倉石嘉代子  
白石 凡子  
杉 フジエ

## 福智の風

▶ 血と汗のにじむような努力のすえに掴んだ大舞台への思いを聞き、胸が打たれた石谷選手の取材(P1-3)。なにより感動したのがその人柄だ。思い上がる姿は一切なく、謙虚で礼儀正しく、そして家族や周囲への感謝を忘れない。限られた紙面上では全てを紹介することができず、心残りだが、その片りんは皆さんにも届けられたと思う。(久原)

▶ いきなり、しかも「総理大臣になったら」という突拍子もない質問に、笑顔で答えていただいたみなさん、本当にありがとうございました。お忙しい中、足を止めてくれた上に、去り際には「大変やろうけど、毎月楽しみにしよう」という励まし言葉も…。この言葉を胸に、必要とされる広報紙を目指して、これからも頑張ろうと心に誓いました。(相原)



1 約700人が来場。2 鼓動を高ぶらせる音色を披露した福智炎運太鼓(旧方城和太鼓クラブ)。3 笑いを誘った方城・金田中の合同演奏。4 5 選手と交流を深める参加者。6 日本の味を提供。7 心を伝えた伊方小の歓迎群読。8 9 10 日本の伝統や文化を披露。11 交歓会の終演を告げる炭坑節の音頭。別れを惜しみながら会場全体で総踊りました。

## Pickup Topics

### ● 飯塚国際車いすテニス大会国際交歓会

主催/飯塚国際車いすテニス大会福智町実行委員会

# 心をつなぐ交歓ラリー



心が通じれば、言葉の壁もなくなります。飯塚国際車いすテニス大会の期間中に行われる恒例行事「国際交歓会」が、今年も福智町で開催され、参加者が心通わせる熱いラリーを繰り広げました。その一部始終をお届けします。

ようこそ福智町へ……。飯塚国際車いすテニス大会の出場選手やスタッフと交流を深める「国際交歓会」が、今年も福智町を舞台に開催され、ボランティアや地域住民約700人が選手たちを歓迎しました。歓迎スピーチでは池田昇実行委員長が「多くの選手を迎えることができたい。この交歓会を通して世界中の人たちと絆を深めたい」とあいさつ。おもてなしの心を伝えました。

6月1日の夜、金田体育館のステージでは、伊方小児童による歓迎群読をはじめ、方城・金田中のブラスバンド部による合同演奏、住民による伝統舞踊などが披露され、選手を手厚く接遇。選手たちは、出演者と写真を撮ったり、郷土料理の「方城すいとん」に舌鼓を打

ったりして場内で交流しました。また、子どもたちが選手に近づき、英語で話しかける姿も多く見られました。旧金田町が町名と同じカナダの選手を招待したことがきっかけに始まった交歓会も、今年で22回目。最後は、炭坑節の総踊りで締めくくり、言葉ではなく、心と心をつなぐ交流で絆を深めました。



5月29日から4日間、激戦を繰り広げた選手たち。コートでは険しい表情でプレーに励みますが、この日ばかりは顔が緩みます。「来年また会おう」。参加した住民が選手に話しかけ、握手やハイタッチを交わして再会を誓う場面が多く見られました。